

CAMERA FOR RECORDING INFORMATION ON PRINT ASPECT RATIO

Publication number: JP1282531
Publication date: 1989-11-14
Inventor: IWASHITA NORIYOSHI; EGAWA TAKESHI;
SUGIYAMA YOSHIAKI
Applicant: CANON KK
Classification:
- **international:** **G03B17/24; G03B17/24;** (IPC1-7): G03B17/24
- **european:**
Application number: JP19880113274Q 19880509
Priority number(s): JP19880113274A 19880509

Report a data error here

Abstract of JP1282531

PURPOSE:To record information on a print of a desired aspect ratio on a file by composing the recording camera of a means setting information on a print of a desired aspect ratio and a means recording said set information on a file. **CONSTITUTION:**When a lengthwise print, for instance, is designated and photographed, a lengthwise print setting lever 4 is shifted to the right, and a finder field switching member 16 is pushed through a leading edge 4a and slid to the right against a spring 18. When the member is slid by a whole stroke, a fixing lever 19 is turned clockwise by a spring 21 to fit the one end 19a of the lever 19 into the notched part 16c of the member 16. In such a way, a visual field frame for a lengthwise print 16b is fitted to the position of a finder 11, which is switched for a lengthwise print, and simultaneously a detecting switch 23 is turned on. If a release button 3 is pushed in that state, a light emitting member (not shown in figure) instantaneously lights up to expose a part facing film, and a desired lengthwise video can thereby be obtained.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-282531

⑬ Int. Cl.⁴

特許庁

特許庁

⑭ 公開 平成1年(1989)11月14日

G 03 B 17/24

6920-2H

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 プリントの縦横比情報記録カメラ

⑯ 特 願 昭63-113274

⑰ 出 願 昭63(1988)5月9日

⑱ 発 明 者 岩 下 知 徳 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社
玉川事業所内

⑲ 発 明 者 江 川 全 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社
玉川事業所内

⑳ 発 明 者 杉 山 義 昭 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社
玉川事業所内

㉑ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

㉒ 代 理 人 弁理士 丸島 徹一

明細書の注(内容に変更なし)

明 細 書

1. 発明の名称

プリントの縦横比情報記録カメラ

2. 特許請求の範囲

所望のプリントの縦横比情報設定手段と、
所記設定手段にて設定された縦横比情報をフ
ィルム面に記録する記録手段とから構成され
る事を特徴とするプリントの縦横比情報記録
カメラ。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

この発明は、プリントの縦横比情報を記録す
るカメラに関する。

【従来の技術】

近年、撮影機種のフィルムを現像所へ出すと
き、同時プリントを依頼すれば各明部により
つプリントしてくれるいわゆる同時プリントシ
ステムが広く普及している。ただし、そのプリ
ントは、プリントの縦横比情報一方向に

る。例えば風景写真(遠山の写真、水平線の写
真等)の場合には、横長のプリント(いわゆる
シネスクープサイズ)にしたい場合があるが、
このためには同時プリントされた写真を見てから
改めて横長プリントを現像所に依頼する手数を
必要とする。

また、鏡付処理の図から見ると同時プリント
システムでは多数のネガフィルムを連結して自
動的、連続的にプリント作業が行なわれるが、
非常に安いコストでプリントすることが出来る
が、縦横比プリントの場合には、ネガフィルム
が昔通り駒単位に短く切断されていること、プ
リントすべきネガの選択、プリントサイズなど
を処理装置に入力する必要があり、同時プリン
トに比べて著しく工費が増え、プリント1枚当
りのコストは高いものとなっている。特に、前述
の知見横長プリントの場合には、印刷紙サイズ
が特殊である為通常の鏡付処理ではプリントで
きる。明細書に記載するの明細書である。カ

【発明が解決しようとしている問題点】

上述の如き問題点を解決するためには、撮影時に所望のプリントの縦横比を決めておき、同時プリントの際に所望の縦横比で焼き付けを行なう様にすればよい。

しかしながら、従来のカメラでは撮影の時点で横長プリントが必要と分かっている、その縦横比情報をフィルム面に記録する手段がなく、したがって同時プリントの際に必要な横の横長プリントを発生させるも、入手する事もできなかった。

【問題点を解決するための手段】

本発明は、上記問題点を解決することを目的とするもので、撮影者が撮影の時点で所望の縦横比のプリント情報をフィルム面上に記録する事が出来るカメラを提供するものである。

本発明のカメラは、所望のプリントの縦横比情報を設定する手段と、設定された縦横比情報をフィルム面に記録する記録手段とから構成されるものである。

である。

第3図はカメラの内装構造を示す図であり、前述の横長プリント設定レバー4、キャンセルボタン5及びファインダー11の連動機構を示す。1は前記カメラボディであり、ここでは部分図面以示される。4は前述の横長プリント設定レバーであり、固定ピン15により左右方向に揺動可能となっている。16はファインダー視野切換部材であり、通常プリント用ファインダー視野16aと横長プリント用ファインダー視野16bとが設けられている。該ファインダー視野切換部材16は固定ピン17により左右方向に揺動可能であると共に、バネ18により常時左方向に付勢される。19は横長設定レバーであり、固定軸20により回動可能に軸支されると共に、一端19aは前記ファインダー視野切換部材16の切欠部16cと係合可能となすと共に、バネ21により常時時計方向に回動可能とされ、バネ19の他端

【実施例】

次に、この発明の実施例について説明する。第1図は本発明を実施したカメラの外観図であり、主な部材を説明すると、1はカメラボディ、2は撮影レンズ、3はリリースボタン、4は横長プリント設定レバーである。5は横長プリント設定のキャンセルボタンであり、誤って押す事を防止するために爪で押す様に構成される。第2図はカメラを裏蓋側から見た正面図であり、裏蓋を取り脱した状態を示す。各部材を説明すると、6はパトローネを収納するパトローネ室、7は光軸方向のフィルムの位置を規制する内レール、8は上下方向のフィルムの位置を規制する外レールである。9はフィルムを巻き取るスプール室であり、10はフィルム端を取り出すスプールである。11はファインダー、12は開閉されない蓋と嵌合する背蓋機構である。又、13はアパーチャである。14は発光ダイオード等の発光部材であり、横長プリント情報をフィルムに写し込む為のもの

向すると共に、開示しないフィルム巻上げ機構（又はリリース機構）に連動するレバー22とも対向する。23は横長プリント設定を通知する検知スイッチであり、前記切換部材16の突出部16dにより通常プリント時はオフ、横長プリント時はオンとなる様に構成される。

上記の如き構成のカメラにおいて、横長プリントを指定して撮影する場合の動作を以下に説明する。横長プリントを指定する場合は、まず横長プリント設定レバー4を第3図において右へ操作する。すると、該設定レバー4の先端部4aがファインダー視野切換部材16を押し、該切換部材16はバネ18に抗して右方向へ揺動する。全ストローク揺動すると、横長設定レバー19がバネ21により時計方向に回動し、横長設定レバー19の一端19aと切換部材16の切欠部16cとが係合し、第4図に示す状態となる。この状態では、ファインダー11の位置に切換部材16の他端16eが位置し、16fは

と共に検知スイッチ23がオンする。この状態でリリースボタン3を押すと図示しない公知の手段により、シャッターリリースが行なわれる。検知スイッチ23がオンしている状態でシャッターリリースを行なった場合には、図示しない回路により発光部材14が一瞬点灯する。すると、第5図に示す如く、フィルム24の発光部材14に対向した部分が露光され、延長プリント情報14aがフィルム上に記録される。シャッターリリース後のフィルム送上げ動作でレバー22が図示されない機構により時計方向に回転し固定レバー19の一端19bを押す。すると、固定レバー19はバネ21に抗して反時計方向に回転し、切換部材16との係合が脱れる。すると、切換部材16はバネ18により左方向に移動し、第3図に示す状態、即ちフアインダー11と通常プリント用フアインダー視野16とが一致すると共に、検知スイッチ23がオフした状態に戻る。延長プリント設定レバー4を誤って動かしてしまった場合、もし

くは、延長プリント設定レバー4を操作した後、気が代ってそれを解除したい場合にはキャンセルボタン5を押せばよい。第4図の状態でキャンセルボタン5を押すと、その先端が固定レバー19の一端19bを押すので、固定レバー19が反時計方向に回転し、固定レバー19の先端19aと切換部材16の切欠部16cとの係合が脱れ、第3図に示す状態に戻り、延長プリント設定の解除が行なわれる。

通常プリントサイズでの撮影を行なうには、設定レバー4を操作せず第3図に示す状態のままシャッターリリースを行なえばよい。この場合は、検知スイッチ23がオフなので、発光部材14は点灯せず従ってフィルム上には延長プリント情報は記録されない。以上より、通常プリントで撮影を行なった場合、延長プリントを設定して撮影を行なった場合のフィルム柄はそれぞれ24a、24bとなる。

第6図は、本発明を実施したカメラで撮影したフィルムの焼付装置の概略を示す図である。

31はネガフィルムで、フィルム送出部32から送り出され、フィルム巻取り部33に巻取られる。その中央部にランプ、コンデンサレンズ、光源部、エキシティングボックスから成る光源部34が設けられる。ネガフィルム31の下側には、情報読み取り部35、焼付用ズームレンズ36、ズームレンズ36の焦点合わせを行なうフォーカス用モータ37が配置されている。情報読み取り部35は、前述の延長プリント情報を読み取る為のセンサーを有する。ネガフィルム31、フィルム送出及び巻取り部32、33、光源部34、情報読み取り部35、ズームレンズ36及びフォーカス用モータ37はハウジングに納められ、焼付装置のヘッド部38を構成する。このヘッド部38は図示しない焼付装置本体に対し上下方向に移動可能に取り付けられる。39はヘッド部回転モータであり、ヘッド部38を通常位置に対し上下方向に移動させる事が出来る。ズームレンズ36の下方には、印

印紙42が送出部40より送り出され、巻取部41に巻取られる。また、焼付用ズームレンズ36の前方には、印紙紙面に送信してシャッター43が設けられている。

次に、この様に構成された焼付装置の動作を説明すると、焼付位置にネガフィルム31が来ると、図示しない公知のフレームエッジ検出部がエッジを検出し、ネガフィルム31を正確位置に停止させる。次に情報読み取り部35のセンサーが、フィルムに記録された前述の延長プリント情報14aの有無を読み取る。情報が何もない通常プリントの撮影の場合(第5図の24aに相当)は第6図の如く、通常プリントサイズでの焼付を行なう。延長プリント情報14aを情報読み取り部35が検出した場合は、図示しない焼付装置の制御回路によりズームモータ23を回転させ、通常プリントに対し拡大された焼付サイズになる様に、ヘッド部38をモータ39によりヘッド部38ストッパへ移動

した位置でのビント合わせを行なう。又、シヤツ43の開口部形状を横長プリント用の開口形状に変更し、横長プリント用のトリミングを行なう。トリミングの大きさは、第5図の2点印線の大きさにする。しかる後に焼付を行なう。上述の如く焼付を行なうと、ロール状の印刷紙上には第7図に示す如く焼付が行なわれる。即ち、印刷紙42上には通常プリントの42aに対し、横長プリント設定を行なったプリント42bがプリントされる。定着処理終了後、カッターにて第7図の破線部で印刷紙42を切断すれば、設定通りのプリントを得る事が出来る。横長プリントの拡大サイズは、横長プリントの短辺の長さが通常プリントの短辺の長さとはほぼ一致する大きさとする。すると第7図から分かる様に、同一のロール状印刷紙上で通常プリントと横長プリントを効率よくレイアウトする事が出来る。

前述の実施例に於ては、横長プリントの場合、ヘッド部を上方へ移動する事のみで対応し

たが、ヘッド部を上方へ移動すると共に、ヘッド部を90°回転させて焼付を行なうと、第8図に示す如く、ロール状印刷紙142上で通常プリント142aに対し横長プリント142bが90°ずれた形で焼き付けられる事が出来る。この場合は、横長プリントの拡大サイズは横長プリントの短辺の長さが、通常プリントの短辺の長さとはほぼ一致する大きさとする。すると、第8図から分かる様に、同一のロール状印刷紙上で通常プリントと横長プリントを効率よくレイアウトする事が出来る。

なお、本発明による横長プリントの拡大サイズは、例えば一時的に決めてしまえば良い。又、2種類以上の拡大サイズが選択出来る様にすることは、検知スイッチの数及び発光部材の数を増やし、それぞれの検知部に対し拡大サイズを決めてしまえば良い。特記実施例においては、ファインダー視野の切換は機械的構成にて行なうように説明したが、液晶等の面子を用いて切換を行なっても本発明を構成できる事はいうまでもない。

い。

【発明の効果】

以上述べた如く、本発明によれば撮影時にカメラの横長プリント設定ボタンを押してから撮影を行えば、同時プリント時でもその撮影時は横長プリントを得る事が出来る。従って、従来の如く同時プリント後、焼き増しプリントにて横長プリントを得るのに比べ、使用者がカメラ店へ足を運ぶ回数やコストを減らす事が出来るばかりでなく、同一の場で横長プリント（焼き増しプリント）と通常のプリント（同時プリント）の2枚が出来てしまうといったムダもなくす事が出来る。

更に本発明によれば、通常サイズのプリントと横長サイズのプリントは同一のロール印刷紙を使用できるので、横長サイズを特殊サイズとして扱う必要がなくなり、非常にコスト安な横長プリントを得る事が出来る。

4. 図面の簡単な説明

第2図はカメラを正面側から見た正面図。

第3図はカメラの内部構造を示す図。

第4図は横長プリントを設定した場合の内部構造を示す図。

第5図はフィルム情報記録状態を示す図。

第6図は本発明を実施した焼付装置の概略図

第7図はロール状印刷紙のプリントレイアウトを示す図。

第8図はプリントレイアウトの他の例を示す図である。

1…カメラボディ

2…撮影レンズ

3…リリースボタン

4…横長プリント設定レバー

5…キャンセルボタン

14…発光部材

15…ファインダー視野切換部材

28…横長プリント設定検知スイッチ

31…ネガフィルム

- 35...絞り優先取り部
- 38...ズームレンズ
- 37...フォーカス用モータ
- 36...ヘッド部
- 39...ヘッド部駆動モータ
- 42...印刷紙
- 43...シヤツタ

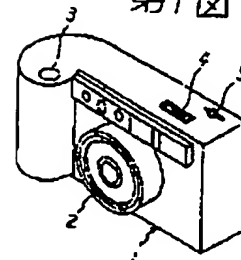
出願人 キヤノン株式会社

代理人 丸山 達

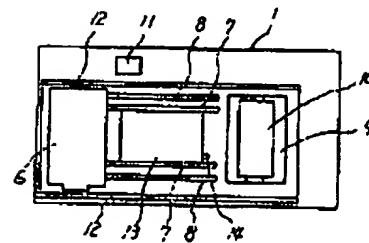


図面の符号(内容に変更なし)

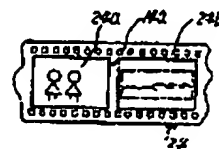
第1図



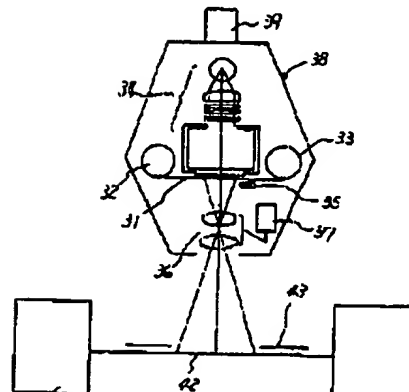
第2図



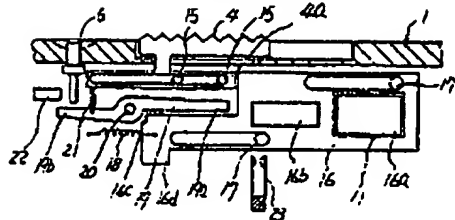
第5図



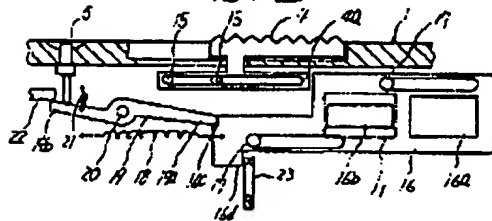
第6図



第3図



第4図



特願平1-282531(6)

特許庁長官 小川 邦夫 殿

昭和63年 8月20日

特許庁長官 小川 邦夫 殿

1. 事件の表示

昭和63年 特 許 願 第 113274 号

2. 発明の名称

プリント縦横比情報記録カメラ

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都大田区下丸子3-30-2

名 称 (100) キヤノン株式会社

代表者 賀 築 雄 三 部長 補 0.21

4. 代 理 人

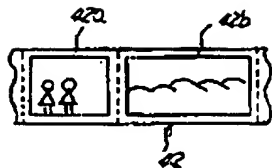
番 所 〒146 東京都大田区下丸子3-30-2

キヤノン株式会社内(電話754-2111)

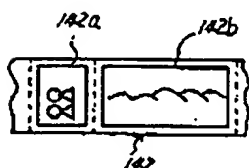
氏 名 (5987) 弁護士 丸 島 儀 一

特 許 庁 長 官 小 川 邦 夫

第7図



第8図



5. 補正の対象

明 細 書 及 び 図 面

6. 補正の内容

明 細 書 及 び 図 面 の 存 在 (内 容 に 変 更 な し)